

平成29年度 輸出仕様食品製造支援事業

1 目的

輸出向け食品の開発を促進し、海外における道産食品の販路拡大を図ることを目的としています。

2 補助対象者

- ・札幌市内に本社(本所)を有する輸出仕様食品の製造者となる中小企業
- ・札幌市内に本社(本所)を有する輸出仕様食品の販売者となる企業(大企業を含む)または協同組合

3 補助対象事業

輸出向け食品を開発して海外に流通させる事業

4 補助金額

補助対象経費の1/2以内、上限額200万円

5 補助件数

10件

- ・アジア圏へのアイスクリーム商品輸出事業(合同会社CANDICE)
- ・北海道産日本酒の新ラインとパッケージ開発(株式会社Kカンパニー)
- ・北海道米の海外輸出向けパッケージ開発(株式会社札幌)
- ・ソーセージ・ベーコン輸出仕様試作生産販売企画(札幌バルナバフーズ株式会社)
- ・北海道米を使用した冷凍加工品輸出プロジェクト(サッポロライス株式会社)
- ・アニマルフリー・ラーメンスープ開発(株式会社シンセン)
- ・月寒あんぱん 海外定番化促進に向けた輸出仕様専用箱開発(株式会社ほんま)
- ・オリブdeサーモン、鮭ジャーキー、鱈ジャーキーの輸出仕様食品製造と販路開拓(株式会社マルデン)
- ・北海道の昆布を使った海外向けふりかけの開発(山小 小林食品株式会社)
- ・「幸せカタラーナ」の東南アジア向けパッケージ変更プロジェクト(株式会社よねたや)

6 補助対象経費

本事業実施に係る以下の経費

- 製造費 ■機器費 ■輸出関係費 ■海外マーケティング費 ■旅費
- その他本事業の遂行に必要と認められる経費

7 募集期間

平成29年4月11日～5月10日

8 申請の受付・問い合わせ

一般財団法人さっぽろ産業振興財団 販路拡大支援部

〒003-0005 札幌市白石区東札幌5条1丁目1番1号

TEL:011-817-7890 FAX:011-815-9321 URL:http://www.sec.or.jp

※平成30年度事業詳細は、市ホームページなどで公開する公募要領等をご確認ください。

株式会社ほんま

月寒あんぱん 海外定番化促進に向けた輸出仕様専用箱開発

- 所在地/札幌市豊平区月寒東2条3丁目2-1
- TEL/011-851-1264 ●FAX/011-854-9034
- 代表者/代表取締役社長 本間 幹英
- 設立/1952(昭和27)年 ●従業員数/50名
- URL/http://www.e-honma.co.jp/

明治39年に創業。今年で112年を数え、札幌市内で最も歴史のあるお菓子店。月寒から平岸への通称「アンパン道路」は同社のあんぱんを食べながら造られたことでも知られる。日本の和洋菓子は海外からの引き合いが強いため英語表記の新パッケージを製作。海外でもロングセラーを目指す。

海外用の新パッケージを開発、販路拡大につなげロングセラーを目指す

「月寒あんぱん」の新しい箱を製作

地元・札幌で百年を超えて愛されるロングセラーのおやつをつくり続けてきた株式会社ほんま。同社での海外展開は昭和50年代ごろから始まり、アメリカ本土やハワイへカステラを輸出していた。2006年、5代目の後継者として東京でまったく違う仕事をしてきた創業家の本間幹英氏に声がかかり入社。翌年、札幌市が主催する台湾での商談会に誘われ参加したことが、自社のメイン商品である「月寒あんぱん」の海外進出のきっかけとなった。東南アジア各地では、日本食が人気であり、メイドインホッカイド商品は競争力があつた。しかし、月寒あんぱんの場合は、ちょっと事情が違っていた。というのも、同社の製品に良く似た中国産の「月餅」という人気商品がすでに流通していたからだ。外見は似ていても、中身はまったく違う。食べて味を比べるとその違いをわかってもらえるものの、いかにこの商品と差別化させるかが課題の一つであった。

既存の5個入り詰め合わせ箱は日本語表記しかなく、外国人に理解されていない現状があつた。そこで、パッケージデザインを一新。日本製であることをアピールしながら、同社の歴史や商品の特長などを英語表記し、箱を見ただけで、どんな企業がつくるどんな商品なのか理解できるようにした。デザインは、高級感と上品なインパクトを与えるように配慮。11月に完成した。

左が新パッケージ、右は従来品



パッケージの側面には英語と日本語で製法や歴史を紹介する



長く売れ続ける道産おやつを目指して

新パッケージはシンガポールとアメリカのスーパーで店頭販売された。試食販売も重ねた結果、売上は順調に伸びた。消費者の反応も良かったが、流通側である小売店の反響が高かった。社長自ら、短期間に4回も現地へ足を運び、海外専用パッケージをつくってまで販売しようとする、その熱意が伝わった。

同社では、ヒット商品になるより少量でもいいから売れ続けるロングセラーになることを何よりも願っている。東南アジアはもちろん、欧米でも飽きないヘルシーなものであるという認識で人気が高まっている。道産の原材料にこだわり変わらぬ製法で長く愛される製品の販売を願っている。

海外展開へのはずみに

「月寒あんぱん」は単品で販売されることも多いのですが、カラの箱を置いておくことで、「5個入りセット」が自分の好みでまとめ買いできるようにしてあります。海外展開でも、日本と同じやり方をしたいと思っていました。今回の助成によっていろいろな面で成果が上がりました。いいきっかけになったと思っています。



代表取締役社長 本間 幹英

地下鉄出入り口直結にある月寒アンパン本舗ほんま総本店



アメリカサンノゼで社長自ら店頭立ち販売

